

整骨院（セイコツイン）と接骨院（セッコツイン）。違いはありません。両方とも同じ。保険も両方とも使えます。

たしか、私の学生時代（10数年前）までは、接骨院しか使えなかったはず。整を使うと整形外科と混同するとかいって医師会が反対していたんですね。でも、名称は柔道整復師。おかしいですね。

今は規制緩和で、僕らの時代よりも、広告の表記がゆるくなりました。ネットなんかほぼ皆無ですから、逆にこんな、載せていいの？ってホムペありますね。

さて、そんな整骨院、最近の先生はこちら（整のほう）の名称で使う方が多い。整の字のほうが、何か、格式もあるかんじするし・・・。古い先生達はほぼ、接骨院ですね。ついでに言うと、昔は接骨院でもレントゲンが使えたんです。ですから、むかしの接骨院はコンクリに覆われた部屋（放射能漏れを防ぐため）を作らなければいけなかったんですね。（年配の先生に聞いてみてください）

そんな柔道整復師の歴史は古く、戦国時代まで遡ります。戦の最中に骨が折れた、肩が抜けた、武士達の治療に整復を施していた事が今の職業につながったと聞きます。さて、職業は？と聞かれ「柔整師」と答えると「はあ？」と答えられる方が多いです。「整骨院ですよ」といえば、理解されるのですが、「整体師さんですね」といわれる事も多いです。

また、柔整の方が整体やカイロと混合されるのを非常に嫌がります。自分達は国家資格。かたや、公的資格もなく、広告の制限もない整体やカイロと混同されるのは嫌なんでしょう。（私にとってそんなに重要な事だとは思わないんですが・・・）

ここで何がしたいか。実をいうと、江戸末期～明治の初頭、文明開化が起こり、西洋の文化がたくさん日本に入ってきたと同時に日本の文化もたくさん外国にでていったという事です。その時に柔道も西洋に広まり、それに伴って柔道整復術も西洋に渡ったと。それが、現在のカイロプラクティックの原型になったと言われています。確か、私の知る限りでは、なんとかパーマーさんが最初にカイロの技術を発案したのですが、カイロの歴史自体百数十年たらずのはずで。時代背景としては、かなりマッチしております。私もこの話は、人から聞いたものだし、ハッキリとは断言できませんが、そう聞くとおもしろいものです。ネットや2チャンネルなんかで、お互い批判しておりますが、もとは同じかも・・・。

ただ、柔整（整骨）に関しては非常に厳しい時代になってきた事は事実だと思います。学校も増え、整骨院もどんどんでき、また最近では介護保険の誕生で近所の高齢者はデイサービスやデイケアに出かけてしまう、こんな時代です。健康保険の窓口負担も昔は高齢者は原則無料、十数年前（私が学生の頃）は2000円ぐらい払えば何回きてもいい状況だったと思います。社会人でも1割負担だったはずで。私も学生時代から整骨院に勤めていましたが、当時は「年寄りのたまり場」みたいな感じでした。今は違ってきていると思います。

商品のライフサイクルがどんどん短くなっていく今の世の中。整骨は衰退産業にむかっているのでは・・・。ここからが勝負でしょうね。生意気でしょうが、柔整の資格がないとしたら、自分には何が残っているか？自分を見つめ直してもいいかもしれません。